

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470201290		
法人名	有限会社コーブンシャ		
事業所名	グループホームほのぼの平尾の家		
所在地	三重県四日市市平尾町78-12		
自己評価作成日	令和4年12月26日	評価結果市町提出日	令和5年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2470201209-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	510-0947 三重県四日市市八王子町439-1
訪問調査日	令和5年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を掲げ、「その人らしい暮らし」の実現に向けて支援しています。
 家族との繋がりを大切にして、利用者の思いに寄り添った生活支援に取り組んでいます。
 また、緊急時には主治医と24時間体制で繋がりを、看取りについても、本人・家族と早い段階から話し合いを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

会社の寮であった建物をバリアフリーにリノベーションした建物は、大きな窓から陽が差し込み、向いに公園があり、天気の良い日はゆっくり散歩を楽しんでいる。アットホームで、利用者だけでなく職員その日の体調まで気遣ってくれる管理者のもと、職員間の横のつながりが良い。運営推進会議はコロナの為全員参加では開催されていないが、職員間のミーティングや研修内容は家族や行政に送付し、意見を回収し、フィードバックしている。看取りについても、本人の意向や家族の思いに沿うようにしている。利用者のオムツ使用がなくなり、夜でも排泄の支援をしている為エアコンは一晩中点け温度差に気を付けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今はコロナ禍のため、「ふるさと広場」等の参加はないが、近隣の方々との会話を通して地域との繋がりを大切にさせていただいている。	「ゆっくり、いっしょに、たのしく」の理念がリビングの壁に掲げてあり、利用者一人ひとりに添ったケアを実践している。職員の平均年齢が高い事もあり利用者の話をうまく聞き出して合せている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今はコロナ禍で出来ていないが、以前から地域行事への参加や運営推進会議等にも参加していただき、地域の方々と交流させていただいている。	今はコロナの為、自治会の行事に参加は出来ていないが、自治会とは密に連絡を取っており、「クリスマス会」や「ふるさと広場」開催の時には、利用者にはプレゼントを届けてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前から地域行事などに参加させていただき、その時に介助など、地域の方々が支えて下さったりして理解させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までは運営推進会議でいろいろな方の意見を聞くことができたが、今は文書報告にてご意見を伺っている。	コロナの為、参加型の開催は出来ていないが、家族や自治会、行政には近況報告をして意見や要望を送り返して貰っている。3月より開催予定であるが、希望者にはZoomの参加も検討している。	Zoomにより、家族や行政の活発な参加が可能になるよう、早期開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば市町村からいろいろな情報をいただき、協力関係を築いている。	書類提出や市役所に出向いた時は、色々と相談に乗って貰い助言をして貰っている。市の研修会にもZoomで参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員全員が周知しているが、玄関の施錠に関しては一軒家であるため、不審者の侵入により職員や利用者的人身を守るため、施錠している。	毎月のミーティングに、全職員参加で研修会を行っている。身体拘束は勿論だが、スピーチロックについての勉強にも力を入れている。防犯の為、玄関の施錠は行っているが、家の中では自由に過ごさせている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても職員全員が周知している。小さいことでも見過ごさないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会など研修をおこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様や利用者が納得されるまで話し合い、不安や疑問点を解決できるまで説明させていただく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族様のご意見や苦情相談窓口があることも説明している。	家族の意見や要望には、何時でも対応出来る事を説明し、電話やメール、ラインなどを使い連絡を密にしている。家族の訪問時には必ず職員が対応することとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月20日代表者も含め、職員全員でミーティングを行い、話し合いをし意見交換を行っている。	毎月のミーティングや朝の申し送り、連絡帳などで何時でも代表者に意見や要望を言える雰囲気である。職員同士が、グループラインで連絡を密に取り合い利用者の支援を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には日頃から職員の意見を聞いていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には研修をしていただいたりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りや研修などの機会を設け、サービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の困っていること、不安に感じていることなどの思いを受け止め、安心されるまで話し合いを重ねている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時には十分な時間をとり、ご本人やご家族の不安や要望などに耳を傾け、安心して入居できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の話を聴き、状況を把握し、必要としている支援を見極め、他のサービスも含めて説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒にになり、家族の一員として接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今は面会など制限があるが、そうでない時はご家族とご本人がゆっくりご家族の絆を大切にしていだけるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため実施していません。できる限りご家族や馴染みの深い方々の面会などには配慮している。	コロナ禍で、面会を中止しているが、コロナ感染対策配慮の元、利用者の100歳の誕生日には家族に祝ってもらう事が出来た。利用者の家族の大部分が、面会制限により、「家族の顔を忘れてしまう」ことや、「認知症が進む」ことを心配している。	一番の馴染みである家族との長期の面会制限は、利用者から家族の記憶が薄れ、馴染みの関係が途切れてしまう結果となりうる。家族等、特に馴染みの深い人とは、窓越し等、感染対策に工夫を凝らしての面会の早期実現が望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良いかわりができるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後にも、必要に応じて相談などの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との対話をもって気持ちを訊き、関心のある事を深めるよう努めている。	利用者一人ひとりとの対話を大切にし、本人の意向に沿うようにしている。時間に余裕がある夜勤の時などに、ゆっくりとお茶を飲みながら話をし、思いを聞き出すよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より今までの生活環境などを詳しく伺って、ご本人にどのケアが適切かを職員同士で話し合い実践している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人に合った生活リズムを大切にして、体調の変化に気を付けて楽しく過ごしていただけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月20日ミーティングでカンファレンスを行い、見直しがあれば変更している。サービス担当者会議にもご家族に参加していただいている。	コロナ禍以前は、「サービス担当者会議」に家族や利用者全員参加で意見や要望を聞いて介護計画を立てていたが、今は本人の意向を確認し、家族の意向はメールや電話で聞き、職員にはアセスメントを出してもらって、3か月ごとに現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者各個人の記録を作成して日々の変化や気づき等があれば記録している。職員間での情報は常に共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急変時などご家族の対応が難しい場合は、職員が同行したりする。日用品の購入などは柔軟なサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前には地域住民の方々の支援を受け「ふるさと広場」などいろいろな行事に参加させていただいていた。時々、外食などを楽しめる支援も行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診と、年2回の健康診断を受けていただいている。24時間体制で連携をとっている。急変時にも対応していただいている。	協力医に月二回の往診と年に二回の健康診断を受けており、24時間体制で連携を取っている。特別指示書で訪問看護師に入って貰う事もある。内科以外の通院は原則家族の付き添いだが、要望があれば職員が付き添い受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば情報や気付いたことを詳細に伝える。適切な対応をしていただければ、かかりつけ医と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や病院、ケアワーカー、ご家族とで連携し、情報交換や相談を行い関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期の在り方について、できる場合できない場合もあるので、入居時に他の施設の申し込みも同時にさせていただくよう支援する。	重度化した場合や終末期の看取りについては、入所時に本人や家族と話し合い、要介護3以上になると特養の申込みを支援するが、あくまでも本人や家族の意向を尊重するようにしている。昨年は2人の看取りをおこなった。	原則「看取りをしない」方針であるが、本人や家族の意向に沿って看取りを行う以上、早急に見取りに関する職員の研修やマニュアルの作成が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の仕方、急変時の対応は医師に連絡して指示を受ける。救急対応での訓練は定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練などを行い、職員全員で安全対策を確認している。消防署からの指示や運営推進会議で近隣住民との相談など、協力体制を築いている。	消防署立会いの元、年2回の避難訓練を行っている。今は自力歩行の出来る利用者がほとんどで、皆玄関から避難することが出来ている。屋外には貯水タンクが設置され、1週間分の食料品や衛生用品の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	挨拶や言葉掛けは必ず行っている。 聞きなれた馴染みの言葉遣いで対応している。 プライバシーに関しては、細心の注意を図り接している。	一人ひとりの意思を尊重し、プライドを配慮しつつ親しみのある言葉で話しかけている。名前の呼び名も本人の意向を聞き、職員間で統一するようしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや訴えには耳を傾けて、出来る限り思いに添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調をみながら支援し、意思や希望に沿って支援することを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの物を着ていただき、清潔にしています。 施設での訪問理容を利用して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に野菜の皮むきや盛り付けなどを手伝っていただいています。	近所から新鮮な野菜が届き、利用者に皮むきや盛り付けを手伝って貰いながら、3食手作りのメニューで提供している。誕生日にはケーキを、季節行事では特別メニューを楽しんで貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調に合わせ、摂取していただいている。 水分は一度にたくさんではなく、こまめに摂っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に一人ひとり、洗面所で口腔ケアをしていただく。ご自分でできない方は支援させていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、個々に応じ声掛けをして、見守りでトイレでの排泄を支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切に声掛けする事により、全員トイレでの排泄が出来、紙パンツとパット使用でオムツゼロが達成されている。夜も時間を見計らってトイレ誘導する事により、オムツをつける必要がなくなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄確認表に記入し、医師の判断により内服薬で調整したり、食事や水分にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は介助支援が必要なため、2組にわけて1日おきに入浴していただいている。ご本人に合わせて支援している。	週に3度の入浴は職員が介助支援しているが、利用者の状況に合わせて手伝い、清潔を保っている。一人で浴槽に入るのが困難な利用者には職員2人体制で支援し、ゆったりと湯舟に浸かれるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日を通して利用者様に合わせて、ゆっくりとした生活を送っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を活用しているため、医師、薬剤師より指導していただき、服用支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から、好きなことや得意なことを見つけて一緒に行ったり、気分転換を図っていただくよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍のため外出はできませんが、季節に合わせた行事などを行っている。	コロナ禍以前は、買い物や外食にも出かけていたが、少しでも季節の移り変わりや外気を感じてもらう為、全員参加で紅葉狩りや桜の花見等弁当を持って出かけている。自治会の行事に参加はできないが、施設内で運動会や盆踊りを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお金は施設で預かり金として管理し、必要に応じてその中から出させていた たく。 利用者様が購入を希望された時などに出金する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話や手紙の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れ、花などを共有の空間に飾ったりして四季の変化を楽しんで生活をしていただく工夫をしている。	居間を挟んでキッチンと事務所があり、いつも職員の目が行き届いている。壁には利用者と職員が一緒に作った作品が飾られ、思いの場所やソファで自由にくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士でご自分で座る場所を決めて座られています、時には思い思いの所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者様が居心地よく過ごせるよう、ご家族が利用者様のために工夫してくださっている。	入所時に馴染みの物を持ち込んで貰うよう勧めているが、各部屋にベッド、クローゼット、エアコンが設置してあり、昼間はほとんどの時間を居間で過ごすことが多いためか、家具等の持ち込みはなく、すっきりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人でも安全に歩行したりできるよう、各所に手すりを設置したり、トイレや浴室などわかりやすく表示している。		